

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和6年2月20日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから2月20日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明いたします。

明日2月21日水曜日、第65回原子力規制委員会が開催されます。

議題の1は「リサイクル燃料貯蔵株式会社リサイクル燃料備蓄センター使用済燃料の貯蔵の事業の変更許可一型式証明を受けた金属キャスクの追加等一」です。

これはリサイクル燃料備蓄センターに持ち込まれる使用済燃料が、従来、東京電力の柏崎刈羽原子力発電所から受け入れることを前提に金属キャスクの型式を指定していたものについて、原電の東海第二や敦賀発電所の燃料も受け入れられるようにするために、貯蔵する金属キャスクの型式を追加する変更を行うという内容のものでございます。

本件については、令和5年9月に申請が行われておまして、1月17日の定例会で審査結果の案について了承が行われております。その後、原子力委員会や経済産業大臣の意見聴取を行ってまいりました。明日の定例会では、意見聴取の結果を踏まえて、変更許可を決定するということが付議される予定となっております。

議題の2は「日本原子力学会標準『中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順』に係る技術評価の結果」です。

本件は、日本原子力学会標準の技術評価の結果を報告するものですが、1月31日の委員会において、同じ学会標準をエンドースするための規則解釈の制定案などが諮られたところ、現時点での学会標準をそのまま審査で用いることはなかなか難しく、示されている解析手法による計算例などのデータの充実が必要といった意見がありましたので、審査基準として運用するための解釈の制定まで行うことはせずに、技術評価結果の報告を報告書として取りまとめるという方針となったものでございます。それを受けて必要な修正を行いまして、今回報告を行うというものでございます。

議題の3は「令和5年度第3四半期の原子力規制検査等の結果」です。

令和5年10月から12月までの原子力規制検査の結果を報告いたします。昨日、監視・評価検討会で報告をされた、増設ALPSの配管洗浄作業に伴って発生いたしました身体汚染についても対応が正式に報告される予定となっております。

また、東京電力の適格性に係る検査結果の報告は、12月の内容から変更はありませんが、手続としては、明日の検査結果の報告をもって、柏崎刈羽原子力発電所の保安規定に定められた原子力事業者としての基本姿勢の遵守のための取組状況の検査の結果が確定するという流れとなっております。

議題の4は「第63回技術情報検討会の結果概要」です。

この技術情報検討会は1月25日に開催されております。この第63回では、5つの知見が議題に上がっておりまして、そのうち1つ、回路故障が二次火災または設備の損傷を誘発させる可能性についてという知見について、物理的な隔離対策を取ることや、ブレーカーやヒューズの検査を行うといった現状の対策で、火災について対応可能ということから、規制としての追加の対応は必要ないという結論に至ってスクリーニングアウトしたというものでございます。その議論の内容などが紹介される予定となっております。

明日夕方からは非公開の臨時会、第66回原子力規制委員会が開催されます。

議題は2つです。

議題の1では、炉安審・燃安審の審査委員の一部が任期を迎えるということから、その候補者が議論されることとなっております。

また、議題の2は、令和5年度第3四半期の原子力規制検査の結果の報告となっております。核物質防護関係の検査結果が報告されます。

10月5日に柏崎刈羽原子力発電所で発生いたしました、薬物検査で陽性反応を示した社員を陰性と誤判定して防護区域内に立入りを承認したという件がございましたが、その再発防止対策の状況とともに評価結果が示されて議論されるという予定となっております。

次に「審査会合、会見などについて」の案件で、2月26日、来週の月曜日の案件です。

第44回もんじゅ廃止措置安全監視チーム会合が開催されます。

もんじゅの廃止措置は、2022年までに燃料体の取出しを終えておりまして、2023年から第二段階の廃止措置に入っております。この進捗を定期的に確認するということとなっております。今回はナトリウム機器の解体に向けたしゃへい体の取出し作業の状況、また、廃措置第二段階の後半として、2028年以降に実施が検討されておりますナトリウムの搬出に関する検討状況について説明を受けることが予定されております。

次に、同日2月26日、3時半から、安全研究及び研究開発に関する原子力事業者との技術的な意見交換全体会合が開催されます。対応は杉山委員です。

本意見会合の実施については、12月13日の定例会で了承されており、これが初めての会合となります。内容は、安全研究や研究開発について、事業者と原子力規制委員会が意見交換を行うというものでございます。2月26日の会合では、原子力規制庁で行っている安全研究の内容、事業者が行っている研究開発の内容についてお互いに紹介した上で、今後、具体的な意見交換を行っていく個別のテーマの設定について議論が行われる見通しとなっております。

次に、2月27日ですが、第8回原子力機構バックエンド対策監視チーム会合が開催されます。対応は田中委員です。

2月21日の話題は、大きく2つございまして、1つが廃止措置の進捗状況でございます。廃止措置中のJAEA（日本原子力研究開発機構）の施設全体について、令和5年に行った措置の実施状況と、令和6年度の実施計画について説明を受けます。また、廃止措置のモデル事業として行われておりますグローブボックスなどの解体状況の説明を受ける予定となっております。併せて人形峠環境技術センターの廃止措置状況も報告があります。

2つ目の話題といたしまして、JAEAが予定しております低レベル廃棄物の廃棄体の製作とその埋設について、将来の事業許可申請を見据えた意見交換が行われる予定となっております。

次に、2月29日木曜日、第515回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合が開催されます。対応は田中委員です。

議題は「日本原燃株式会社再処理事業所再処理施設、廃棄物管理施設及びMOX燃料加工施設の設計及び工事の計画の認可申請について」です。

本件については、引き続き入力地震動の審査が行われる予定となっております。

同日、第1231回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合が開催されます。対応は杉山委員です。

議題の1は「北海道電力株式会社泊発電所3号炉の設計基準への適合性及び重大事故等対策について」です。

前回審査会合は2月1日に行われております。事業者から、規制委員会側からのコメントに対して回答が示される予定となっております。

議題の2は「九州電力株式会社川内原子力発電所1号炉及び2号炉の使用済燃料貯蔵設備等の共用化及びタービン動補助給水ポンプの取替えに係る設置変更許可申請の審査について」となっております。

本件の申請は1月17日で、今回が初めての審査会合となりますので、申請概要について技術事業者から説明が聴取される予定となっております。

3月1日金曜日、第1232回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合が開催されます。

議題の1は「電源開発株式会社大間原子力発電所の敷地の地質・地質構造について」です。

大間原子力発電所の敷地内に見られるシームについて、変状変位の有無、後期更新世以降の活動性の判断を行うための審査が行われる予定となっております。

議題の2は「中国電力株式会社島根原子力発電所2号炉の第3バッテリー格納槽の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価について」です。

2月16日に引き続き、周辺地盤や斜面の安定性評価の審査が行われる予定となっております。

本日の案件は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—